

ウムチョ ムウイーザ通信 No. 22

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

「ADESOC」報告 ウムチョムウイーザ学園と出会って

2009.2

ウマリアジョゼイアーネ 18歳 6年生

私は、2000年にある小学校に入学し、その後この学校に転校しました。

私が受けている応援の中で、一番は先生が一生懸命授業の内容を教えてくださいますこと、さらにおなかがいっぱいになるときに食べ物をしていただき、学費も免除されていることに感謝しています。

私の目標は、一生懸命勉強して自分の家族と国のために頑張ります。将来の夢は、歌手か医者になることです。

フラハニレレ 中学1年生

Dear Japanese friends 私は小学校で勉強できたのは皆さんのおかげです。とてもむずかしかったけれど、卒業まで頑張って勉強することができました。アフリカで勉強することはとてもむずかしいです。貧しいからです。これからも勉強を続けて頑張っていきたいです。皆さんが夢に向かって勉強できるように支援してくれた娘からの感謝の言葉です。

ハキゼイマーナマペンド 14歳 6年生

Dear Japan こんにちは！2009年から英語で勉強するようになりとても大変です。しかし、この学校は私たちを見捨てませんでした。わからないことがあると、親切にわかるまで教えてくださいます。とてもうれしいです。

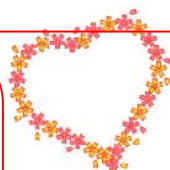
私の夢は、卒業まで勉強できることです。今、学べることに感謝しています。

ガサシイラ 10歳 5年生

Dear Japanese 2009年が皆さんにとって良い年でありますように！学校を作ってくれてありがとうございます。2009年には英語教育にしてくれたことに感謝します。先生方もすばらしく私たちのために頑張っています。学費が出せないときも勉強させてくださっていることに感謝します。

ベンジャミン 12歳 6年生

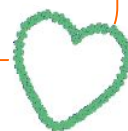
2001年に幼稚園に入園しました。その後父がガンで亡くなり、母が一人で育ててくれています。学費が払えないときもこの学校は見捨てませんでした。私たちを支援することをあきらめないでください。いつかは良くなると信じて、勉強しています。将来はスポーツ大臣になりたいです。



ムレカテテノエラ 4年生

私は、2003年に幼稚園の年少から学園にお世話になっています。

私たちをささえてくださる皆さんに感謝します。



皆様のご支援によりこのような事業に取り組む事ができ感謝申し上げます。

こちらではまだ、虐殺が残した悲惨な生活とともに生きています。ウムチョムイーザをとりまく状況についてお知らせします。虐殺で残された未亡人の会(アベガ)の子どもたちは、私たちの学校で行き場を見つけました。そのうちの一部はエイズ感染者の子もいます。また、親がエイズ感染者であったり、あるいはすでに親が亡くなっている子もいます。他の学校に比べれば、子どもたちの数が少なくても少しずつ進んでいます。

学校運営について

2008 年度（1 月～12 月）の間、全校生 343 人と 30 人のスタッフがいました。年度末の終了式の結果としては、学費が一人当たり 1 学期ごとに 3 万 5 千ルワンダフラン（約 5,833 円）、3 学期で一人当たり 10 万 5 千ルワンダフラン（約 17,500 円）収める事になっています。別紙に出金された金額を記載しています。十分ではないと感じるでしょう。みなさんから頂いたご協力がなければ、なにも出来ませんでした。

P T A の総会の結果、2009 年度には学費を上げることは困難なので、1 人あたりには引き続き毎学期 3 万 5 千ルワンダフラン（約 5,833 円）とし、プラス先生方の一時金として毎学期子ども一人当たり 1 万ルワンダフラン（約 1,667 円）を払ってもらう事を決めました。新しい年度になって実際にどうなるか見守っていきたいと思います。

諦めないで前向きの姿勢を持ち続けます。赤字を補うために職員を減らしました。30 人から 25 人に減らしました。軌道に乗るためには英語の研修を定着させることにしました。なぜなら、国の教育言語としてフランス語から英語になったからです。国の経済環境がとてくずれています。貧しい子どもたちにはルワンダの教育を考える会の支援によって乗り越えてもらいたいと思っています。

英語化と格差社会について

2009 年度の新学期については、昨年度より少ない全校生 274 名でスタートしましたが、さらに 1 か月がたった今 271 名に減りました。親たちは迷っています。英語の学校を求めて子どもたちをウガンダの学校まで行って進学させている親もいます。先生達は昨年 11・12 月に英語指導研修を受講して自信を持って教えているので、この変化に対して希望を捨てずに見守っていきたいと思います。

お金のある親は 1 学期に 9 万ルワンダフラン（約 15,000 円）を支払っても英語教育を求めて英語教育を以前からやっていた私立学校へ集中していて、公立学校には格差社会で取り残された子ども達が通う現状です。貧しい子ども達は生活するために働き学校にも通えません。虐殺から 14 年が経過し、富める者と貧しい者の貧富の格差が拡大してきた社会構造の表れともいえるでしょう。



ウムチョムイーザ学園の運営が出来るのは、多くの皆様のご協力のおかげです。このような重みのある仕事を支えてくださっている皆様にウムチョムイーザ学園を代表して心から感謝申し上げます。



ウムチョムイーザ学園の2008年度の会計報告



1学期（1月～3月） 2学期（4月～7月） 3学期（8月～12月）

2008年度（1月～12月）の学費の納入状況の報告

2009.2.10

単位:人 * 時価換算による。単位:円

納入状況	幼稚園			小学校						合計	金額
	年少	年中	年長	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
100%	15	17	19	26	33	37	33	21	12	213人	3,727,500
その他	8	4	13	13	7	7	19	13	8	92人	683,125
0%	1	2	3	6	4	7	6	3	6	38人	0
合計	24	23	35	45	44	51	58	37	26	343人	4,410,625
予算額											6,002,500
不足金額(日本からの支援額)											1,591,875

- 授業料＝先生方への給料は約27%及び学園の建設や施設設備・研修費等が日本からの支援によって成り立っています。無事運営できましたことに感謝申し上げます。
- 小学校入学は行けるようになった時点で入学することもあるので、10歳で入学という例もあります。そして、中学校への進学のためには中学校入学資格の国家試験があります。さらに中学校の数が限られているために上位から国内の各中学校に振り分けられます。そのために、遠隔の地の中学校を指定された生徒は寮に入らなければなりません。
- 今回学園の6年生26名は全員国家試験に合格し2月には各中学校に入学できました。

〔収入〕

〔支出〕

円換算

項目	金額	項目	金額	項目	金額
学費	4,410,625	職員への給料	5,760,659	建設費用	868,948
日本からの支援	3,516,098	設備維持経費	186,924	盗難等計画外支出	124,050
入学登録料	77,000	通信費	68,529	税金	16,417
バス運行収入	157,833	消耗品	276,486	英語研修費	185,750
水販売収入	17,584	車のガソリン代	327,500	子ども達のスポーツ大会行事参加費	21,592
家畜収入(やぎ・うさぎ)	11,667	車の修理保険代	192,243	銀行への返済金	27,417
国からの補助金	18,250	管理運営会議費	37,740	日本への民芸品代	204,829
先生からの借金返済金	95,867	環境整備費	99,971	立て替え分	
12月の給料分の借金	250,000	家畜の維持費	10,318	先生へ貸し出し	95,867
		備品	19,250		
		小計	6,979,620	小計	1,544,870
合計	8,554,924			合計	8,524,490

残金 30,434

ルワンダ・レポート1

ウムチョムウイーザ学園とルワンダの教育事情

元 JICA ルワンダ派遣理数科教育短期専門家 廣瀬桂子

私は 30 年前に青年海外協力隊に参加してガーナに行って以来、さまざまなかたちでアフリカとかかわってきました。ルイズさんとはアフリカの教育開発を考えるシンポジウムで知り合いになりました。昨年、JICA の短期専門家としてルワンダの理数科教育プロジェクトで仕事をしましたが、ルイズさんを通してルワンダに関心を持っていなかったら、この仕事を選んでいなかったかもしれません。2 か月間という短い滞在でしたが、その範囲で分かったことや感じ取ったルワンダの様子を、ルイズさんの趣旨に賛同して活動する皆様にお伝えできればと思います。まずは、教育現場の様子をレポートします。

ウムチョムウイーザ学園について

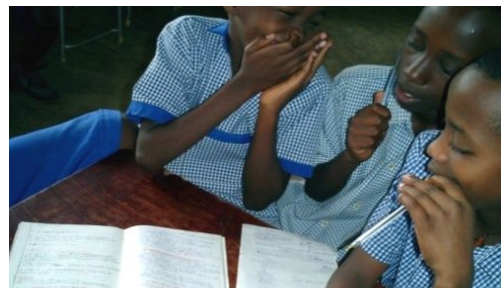


1 年生の教室で

ルワンダ滞在中に是非、ウムチョムウイーザ学園を訪問したいと思っていましたが、なかなか時間がとれず、実現したのは学園が学年末の休暇に入る前日でした。短時間の訪問でしたが、私がこれまでに見てきた他のアフリカの小学校に比べ、「きめの細かい教育」が行われていることが容易に見て取れました。具体的には、教師の子供たちへの接し方、生徒の態度やノート、板書（落書きを含む！）、教室の壁に貼られた教材や生徒の作品、などからです。特に、試験を前にした 6 年生の真剣な自習態度、

授業内容や生徒の理解度が分かるきれいに整理されたノートには感心しました。ルワンダの他の小学校を見る機会がなかったので単純に比較はできませんが、ルイズさんや活動を支援されているみなさんの思いと努力が反映された特別な現れだと思いました。これまでアフリカの学校を調査してきて、特に公立小学校の未整備さが気になるとともに、初等教育こそ日本の教育経験が大いに貢献できる場であるとも感じています。そうした意味で、ウムチョムウイーザ学園はそれを実践しているよい例になると思いました。

学園を語るのに忘れてはならないのが、チャールズ校長の存在です。氏は、現コンゴ民主共和国の教育大学で数学・物理を専攻し、長くセカンダリースクールの数学と物理の教師を務めた人です。ルイズさんの義兄ですが、彼女の数学の恩師でもあります。さて、この誠実で物静かなお人柄とお見受けしていたエリート校長が、なんと私がお邪魔していた小 1 の教室に、子供たちの歌に合わせ陽気に踊りながら入ってくるではありませんか。チャールズ校長のお人柄のこの一面に触れ、「学園は大丈夫！」と瞬間的に感じました。



ノートを囲んでテスト勉強をする 6 年生

教授言語の変換と教科書不足問題

現在、ルワンダでは主たる教授言語をフランス語から英語に切り替えようとしています。私が関わっていた中学理数科教師の研修も、研修開始直前に英語で行うよう指示があり、研修での使用言語と研修で使用する教本を英語に改めるという事態になりました。日本での言語使用環境からすると考えられないことですが、そこは複数言語使用が日常化している国です。大した混乱もなく、研修は7～8割方英語で滞りなく行われました。ルワンダに限らず、アフリカの人々の多言語使用能力は、私たち日本人からみると羨ましい限りです。

この教授言語の変換を機に、英語の教科書がルワンダの生徒に十分行きわたり、教科書を使用する授業形態に変わっていけばいいなと思っています。ルワンダ国民の教育への関心は比較的高く、政府も教育開発に力を入れています。私が見た限りでは、教科書や指導書が極端に不足していたからです。小学校でもセカンダリースクール（中・高一貫）でも教科書はほとんど使われていませんでした。教科書を使わないことが、生徒のノート作りの充実につながるという長所もありますが、一方で知識理解の不正確さの原因にもなっています。例えば、数学は規則を正しく理解していくことの積み重ねですが、研修に参加した教師の中にも「規則」の不正確で曖昧な理解状況がかなり見られました。これでは教えられる側の生徒は混乱し、「数学はむずかしい」となってしまいます。活字による確実な知識の獲得が必要です。教授言語の切り替えは、ルワンダの現状ではそう難しいことではないように思います。むしろ、これを機に教育の質を向上させるさまざまなことが伴うことを願っています。

教員事情



熱心に教育問題を議論する理数科教師

教育開発は、途上国共通の優先課題でありながら、その担い手である教師の待遇が改善されないため、途上国では教育開発が思うように進まないという現実があります。ルワンダでも教師の給与は、「他の職場で働く同学歴の人より低い」といわれています。しかし、私が見たルワンダの状況は、期待が持てるものでした。その理由の一つは、保護者や社会に教員を支援する体制がある程度できていることです。PTAが教師の給与の2, 3割相当（学校により異なる）の額を給与に上乗

せする支援をしています。このことは、単に教師の生活を経済的にサポートするだけでなく、保護者や社会が教育の重要性を認識し教師に敬意を払っていることの表れであり、この物心両面でのサポートに教師は支えられています。次に、全国規模の教員集会で、教員側にも「頑張ろう」という積極的な態度が見られたことです。低い給与にやる気を失っているアフリカの教師は少なくありません。しかし、集会では、「給与が少ない分を、野菜栽培などの副業で補おうではないか」とか、「英語研修やコンピューターの研修を自主的に行う」といった前向きな意見が多く聞かれました。又、私が仕事で係わった理数科教師研修会でも参加した教師の研修態度は非常に熱心でした。

こうした教師の頑張りに期待し、みなさん同様、私もルワンダの教育開発を応援していきたいと思っています。

ルワンダデー・インふくしま

夏のコンサート
7月25日(土)・26日(日)開催予定
詳しくは総会にて決定します。

忙しい日本人のために
今回作ってみました

Pole Pole (ポレポレ)

作詞作曲 大河原伸

アフリカ生まれの おまじない

ステキなステキな言葉 Pole Pole

疲れた あなたの心を

やさしく包んでくれる Pole Pole

忙しすぎる毎日は あなたを変えてしまった

あなたの心と体は こんなに冷たくなってしまった

凍った心にふりかけて やさしい魔法の言葉 Pole Pole

Pole Pole Pole Pole

Pole Pole (ポレポレ) はスワ
ヒリ語で「ゆっくり、ゆっくり、
穏やかに」の意味です。

☆各種振替口座番号のご案内です!☆

会費振込・寄付・募金

郵便振替口座：02290-0-97126

加 入 者 名：NPO法人 ルワンダの教育を考える会

ホームページ
からの募金も
受付中です

ソーラー発電…ソーラー発電機を増やし、電力の確保をしたいと考えています。

郵便振替口座：02200-2-77634

加 入 者 名：ルワンダ ソーラー発電P

HELP

事務局では、事務局スタッフ及び各種イベント開催時、お手伝いくださる方を随時募集しています。(イベント開催時の半日でもOKです。) よろしくお願ひします。

—編集後記—

2009年1月より、ホームページをリニューアルすることが出来ました。タイムリーに、そしてみなさんと共にワクワクするようなものを作っていきたいと思います。



ルワンダの教育を考える会

理事長 高橋 啓子

副理事長 カベンガ・マリルズ

〒960-8055

福島県福島市野田町四丁目 8-20

TEL / FAX: 024-533-8289

ホームページ: <http://www.rwanda-npo.org>

e-mail: info@rwanda-npo.org

